

厚岸町の湿原周辺におけるケアリ属の好蟻性ハチ類相の解明

九州大学昆虫学研究室
梶原冴月・河合諒人・松浦公平

緒言

アリのコロニーは外敵を排除する性質をもつが、その攻撃網をかいくぐり、豊富な餌資源や安全な住処を利用する好蟻性昆虫が様々な分類群で知られる (Hölldobler & Wilson, 1990 など). 好蟻性ハチ類には、アリに寄生する種とアリ以外の昆虫に寄生する種が存在し、アリとの関係は多様である (Lachaud & Pérez-Lachaud, 2012). しかし、日本産好蟻性ハチ類の既知種は約 30 種に留まり、その種多様性は十分に解明されていない (丸山ら, 2013). 北海道には、コロニーサイズが大きく、好蟻性昆虫が豊富に見られるケアリ属 *Lasius* やクシケアリ属 *Myrmica* が多く生息している. 特にケアリ属では、1 巣から 20 種以上の好蟻性昆虫が見られることもある (丸山, 2012). さらに、著者の一人は北海道帯広市においてモリシタクサアリ (ケアリ属) *Lasius capitatus* の巣から、日本未記録種を含む計 4 種の好蟻性ハチ類を確認しており、北海道の好蟻性ハチ類相には、未解明の多様性が存在することが予想される. 特に厚岸町の別寒辺牛湿原周辺は原生的な自然環境が良好に維持されており、好蟻性ハチ類の新たな発見が期待される. そこで本研究では、厚岸町の湿原周辺においてケアリ属の好蟻性ハチ類の種多様性を明らかにすることを目的として調査を行った.

材料と方法

調査は 2025 年 8 月、9 月および 10 月の計 3 回実施した. 各調査では複数地点でアリの巣を探索し、調査地点として愛冠岬と水鳥観察館付近、および別寒辺牛付近の 3 カ所を選定した (表 1). 好蟻性ハチ類の採集には、見つけ取り法 (寄主アリを探してハチを見つけたらアリとハチを採集する) とイエローパントラップ (黄色の容器に水を貼って設置するトラップ) を併用した. 水鳥観察館にはマレーゼトラップ (テント型トラップ) も設置した. アリは、吸虫管を用いて採集し、ハチは吸虫管と遠沈管を用いて採集した.

採集した好蟻性ハチ類は乾燥標本にし、実体顕微鏡 (OLYMPUS SZX10) 下で形態観察を行い、同定した. 好蟻性ハチ類の種同定には、Bouček (1963), Konishi et al. (2012), Takada (1983) を用いた. アリの種同定には、寺山ら (2014) を用いた.

結果

未記載種含む 3 科 4 属 4 種の好蟻性ハチ類を採集した. 採集した標本を採集地点名の略称、個体数と性別、および採集日の順で以下に記す. 水鳥観察館周辺では見つけ取り、イエローパントラップおよびマレーゼトラップいずれの採集法を用いても好蟻性ハチ類を採

集することができなかった。

コガネコバチ科 Family Pteromalidae

1. *Spalangia crassicornis* Bouček, 1963 (図 1A)

愛冠：1♀3♂; 19 IX 2025.

備考：クロクサアリ隠蔽種群の一種 *Lasius fuji* Radchenko, 2005 sensu lato の巣口を歩いているところを採集した。本種は緒言で述べた，筆者の一人が帯広市のモリシタクサアリの巣から発見している日本未記録種である。イギリスでは，好蟻性ハエ類である *Milichia ludens* (Wahlberg, 1847) と *Phyllomyza lasiae* (Duda, 1935) (どちらもクロコバエ科) に寄生することが知られている (Donisthorpe, 1927, 1938)。

コマユバチ科 Family Braconidae

2. オオアリマキヤドリバチ *Protaphidius nawaii* (Ashmead, 1906) (図 1B)

愛冠：1♀; 23 VIII 2025.

備考：ハヤシケアリ *Lasius hayashi* Yamauchi & Hayashida, 1970 の巣の蟻道上で採集した。本種は今回の調査で初めて北海道から見出された (梶原・河合, 印刷中)。ケアリ類に随伴するアブラムシ類に寄生する (Ashmead, 1906; Kim et al., 2025; 丸山・小松, 2013; Takada, 1983, 2009)。

ヒメバチ科 Family Ichneumonidae

3. クロクサアリヤドリバチ *Ghilaromma orientalis* Tobias, 1988 (図 1C)

愛冠：2♂; 23 VIII 2025.

別寒辺牛：3♀; 18 IX 2025.

備考：愛冠岬では，*S. crassicornis* を採集したのと同じのクロクサアリ隠蔽種群の一種の巣の付近において，本種がホバリングしていたところを採集した。本種が属するアリヤドリバチ亜科は，全種がアリの幼虫に寄生すると考えられており，成虫はアリの巣付近や行列上をホバリングする様子が観察されている (Cobelli, 1903, 1906; Gómez Durán & van Acterberg, 2011; Komatsu & Konishi, 2010; 丸山・小松, 2013)。本種の寄主はクサアリ類とされるが (Hisasue et al., 2023; 丸山・小松, 2013; Watanabe, 1984)，種レベルでの正確な寄主範囲は不明である (梶原・松浦, 2025)。

4. *Hybrizon* 属の一種 *Hybrizon* sp. (図 1D)

愛冠：1♀; 22 VIII 2025, 3♀; 23 VIII 2025, 1♀; 24 VIII 2025.

備考：ハヤシケアリの蟻道上（樹幹にケアリ類が構築する木屑や土壌で作られたトンネル状のシェルター）をホバリングしていたところを採集した。本種は遺伝的、形態的に同属他種と識別できることから、これまで学名がつけられていない未記載種であると考えられる。本種の寄生行動は確認していないが、蟻道上でホバリングする様子からアリヤドリバチ亜科の他種と同様にアリの幼虫に寄生すると考えられる。

考察およびまとめ

本調査では、未記載種含む 3 科 4 属 4 種的好蟻性ハチ類を採集し、厚岸町の湿原周辺におけるケアリ属の好蟻性ハチ類相の一端を解明することができた。本調査で確認された 4 種のうち、1 種は日本未記録種、1 種は北海道未記録種、1 種は未記載種であった。これらはいずれも、見つけ取り法により採集されたものである。これまで記録がなかった背景としては、生息環境が限定的であることが考えられる。

また、本調査は 8 月から開始されたが、6 月や 7 月を中心に発生する好蟻性ハチ類も存在する (Konishi et al., 2012)。そのため、これらの時期にも調査を行うことで、確認される種数がさらに増加する可能性がある。本調査で得られたリストは暫定的なものであり、日本未記録種および北海道未記録種については、今年中に正式な報告を行う予定である。未記載種についても、今後、分類学的検討を進めていく予定である。

謝辞

愛冠岬での調査は道有林への入林許可、北海道大学の採集許可を得て実施された。この採集許可申請に際し、お世話になった釧路総合振興局、北海道大学厚岸臨海実験所のみなさまにお礼申し上げる。別寒辺牛付近での調査は国有林への入林許可を得て実施された。この採集許可申請に際し、お世話になった北海道森林管理局のみなさまにお礼申し上げる。クサアリの同定を確認していただいた野崎翼氏（九州大学）、10 月の調査にご同行いただいた川島育海氏（九州大学）、本調査にご協力いただいた厚岸水鳥観察館の館長の澁谷辰生氏とスタッフの古巻翔平氏に感謝申し上げます。

表 1. 調査地点の緯度経度.

略称	調査地	緯度経度
愛冠	厚岸町愛冠愛冠岬駐車場付近、愛冠自然史博物館付近	43.019°N, 144.837°E
水鳥観察館	厚岸町サンヌシ水鳥観察館付近	43.097°N, 144.863°E
別寒辺牛	厚岸町別寒辺牛ドライブ川付近	43.186°N, 144.840°E

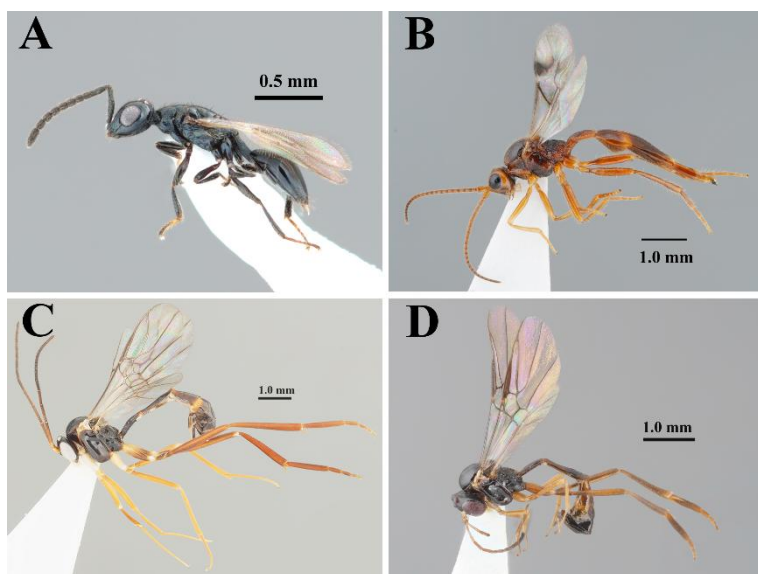


図 1. 調査で得られた好蟻性ハチ類.